



# みねのぶ

7月号



甘酸っぱいハスカップ旬到来  
峰延ハスカップ生産組合観光農園スタート（6月22日）

■発行日/令和5年7月1日/No.1455号

■発行/峰延農業協同組合

〒079-0192 美唄市字峰延37番地

Tel 0126(67)2111 Fax 0126(67)2793

ホームページアドレス <http://www.ja-minenobu.or.jp/>

■編集/総務課 ■印刷/空知印刷株式会社

## 大豆種まき最盛期を迎える

### 生産量1400トン見込む



大豆の播種作業を進める内田貴大さん

J A管内では5月下旬、大豆の播種作業が最盛期を迎えました。9・2糾の圃場に大豆を作付する岩見沢市峰延町の内田貴大さんは、23日から播種作業をスタート。晴天が続いて順調に作業が進みました。

内田さんは「こまめに圃場を観察し、除草や病害虫防除などの管理作業を徹底して高品質な大豆の生産を目指したい」と話しています。

本年度のJAの大豆作付面積は約511haを計画し、生産量は約1400トンを見込んでいます。



伊藤組合長から激励を受けた古賀心さん（左から2人目）と白石慎二さん（同3人目）

## 令和5年度新規就農者2人

### 6月常会で紹介し激励状贈呈

6月1日、令和5年度の新規就農者激励会をJA本部事務所で開催しました。

今年は岩峰地区の白石慎二さんと峰樺地区の古賀心さんの2人の新規就農者が仲間に加わりました。

伊藤組合長がJAグループ北海道各連合会などからの激励状や書籍、JAからの記念品を手渡しました。

伊藤組合長は「農業の技術革新が進む中で、可能性が多くやりがいのある職業でもある。JAも全力でサポートしていく。自分にあつた営農スタイルを見つけてまい進してほしい」と激励しました。

## 令和5年度 新規就農者紹介

### ゆめぴりか良質米生産者表彰

6月1日、JA本部事務所で北海道米の新たなブランド米形成協議会が主催する令和4年産「ゆめぴりか」良質米生産出荷表彰者の受賞式を行いました。

当JAから、タンパク値6・8%以下の出荷数量が全道平均値を上回る生産者として9人が優秀表彰を受け、タンパク値7・4%以下の出荷数量が全道平均値を上回る生産者として9人が優良表彰を受賞式を行いました。



白石慎二さん(30歳)  
経営者 白石昭彦さん  
(岩見沢市峰延町)

- ①休日の過ごし方
- ②農業を志した理由
- ③今後の抱負

- ①映画鑑賞、音楽フェス  
②家業が農業だったので少しでも貢献したいと思ったから  
③まだ知らないことの方がが多いので、まずは勉強してから色々と考えていきたいと思います



古賀心さん(20歳)  
経営者 古賀崇之さん  
(美唄市峰延町峰樺)

峰延ブランド米生産組合の鈴木孝典組合長から優秀表彰者へ金色認定マークのマグネット、優良表彰者へはえんじ色認定マークのマグネットを手渡しました。

- ①魚釣り、映画鑑賞  
②家が農家とすることもありますが、一番は自分で作った作物がお客様においしいと喜んでいただけの農家になりたいため  
③家の経営状況や改善点などを知り、今後の農業をもっとより良いものにしたい



鈴木孝典組合長(左)から金色認定マグネットを受け取る山田政信さん

## 新酒「一圓融合」発売スタート

6月1日、当JA管内で生産した酒造好適米「彗星」が原料の純米大吟醸「一圓融合」の新酒の発売がスタートしました。

「一圓融合」は9年前、JAの100周年記念事業の際に、地元の米を使った商品を作りたいという思いから誕生しました。醸造は空知管内栗山町にある老舗蔵元、小林酒造に依頼。土産などに好評で、予想を上回る人気となりました。

今年の新酒は、昨秋に収穫した酒造好適米「彗星」で醸造し、精米歩合45%、アルコール分15%。すつきりした味わいと滑らかな口当たり、雑味が少なく、やや甘みのある酒に仕上がっています。

6月2日、岩見沢市で開いた新酒発表会には、関係者ら42人が出席し、前年産と新酒を飲み比べし、熟成度合いや口当たりの違いなどを確認しました。

伊藤組合長は、「今年もいろいろ人の力を借りて、皆さまに楽しんでもらえるおいしい酒になつた」と述べました。

価格は720円で販売しています。JA店舗で販売しています。



酒造りを始めて今年で9年目となり  
これまでの歩みを振り返りました



開会の挨拶をする伊藤組合長



ご協力いただいた（前列左から）矢部亜紀子さん、沢田三枝子さん、吉村俊子さん  
(後列左から) 鈴木美恵子さん、小川眞知子さん、荒井智美さん

## 地域の皆さん 「花いっぱい運動」で JAに花プランター設置

マリーゴールドやサルビアなど、色鮮やかな花苗を一つ一つ丁寧にプランターに定植しました。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

6月9日、地域の皆さんボランティアで花プランターを作り、JAの事務所出入口に設置しました。「花いっぱい運動」は色とりどりの花を植えることで峰延地域の景観を美化することを目的に行われました。



J A共済連から感謝状を受け取る伊藤組合長

## 自動車共済 事故受付満足度10位 JAみねのぶ感謝状受賞

6月7日、JA本部事務所で令和4年度のJA自動車共済損害調査サービスを通じて、JA自動車

評価を得たJAとして、JA共済連から感謝状を受け取りました。当JAは全国の小規模JA（自動車共済新契約件数5000件未満）の中で10位の結果となりました。

伊藤組合長は「お客様に寄り添った対応が評価されたのではない。今後もJA共済の利用者満足度の向上に努めたい」と話しました。

## 園児40人が田植え体験

### 青年部員が園児に手ほどき

J Aみねのぶ青年部は5月25日、

圃場で、美唄アカシヤ幼稚園、美唄市光珠内町北の吉村惇さんの

唄めぐみ幼稚園、茶志内双葉保育園、進徳保育園の園児40人を対象

に田植え体験を行い、「ななつぼし」の苗を1時間で約3ヶ手植え

しました。

青年部員が園児に苗の植え方や圃場での歩き方について指導しました。園児たちは慣れない土の感触に元気な声を響かせ、泥まみれになりました。

田植え体験を行い、「ななつぼし」の苗を1時間で約3ヶ手植え



苗を丁寧に植える園児と橋本康宏さん

J Aみねのぶ青年部は5月26日、4カ所の青年部員の圃場でラッカセイの播種作業を行いました。営農試験研究の一環として、道内で生産が広がるラッカセイに注目し、やや大粒で殻も白くきれいに育ちやすい品種「ナカテユタカ」を約10ヶ栽培。収穫したラッカセイは、ナツツなどの加工販売事業を展開している食品加工会社へ出荷されます。

J A管内では稻作を中心に小麦や大豆の栽培が盛んですが、より収益性の高い作物の栽培にも取り組み所得向上を目指す目的で行わされました。

青年部管委員長の川端慶也さんは「青年部活動をきっかけに、地域の特性に合った新規作物の栽培に取り組み、地域農業の発展につなげたい」と意気込みを話していました。

J Aみねのぶ青年部は5月30日、3カ所の青年部員の圃場でサツマイモ苗の移植作業を行いました。

営農試験研究の一環として、品種「ハロウインスイート」と「紅あずま」を約30ヶの圃場に600株移植しました。部員の皆さん

はサツマイモ用の植え付け器を使って、30センチごとに一つ一つ丁寧に手作業で植え付けていました。

収穫作業は9月末から10月上旬に計画しています。

## 青年部員がラッカセイ栽培に挑戦

J Aみねのぶ青年部は5月26日、4カ所の青年部員の圃場でラッカセイの播種作業を行いました。営農試験研究の一環として、道内で生産が広がるラッカセイに注目し、やや大粒で殻も白くきれいに育ちやすい品種「ナカテユタカ」を約10ヶ栽培。収穫したラッカセイは、

初めて田植えに挑戦した園児たちは「楽しかった」「土が冷たかった」と話していました。秋には稻刈り体験、脱穀体験を行い、収穫した米を園児たちにプレゼントする予定です。

今後、栽培に関するノウハウを持つ専門家と共に随時圃場巡回を行い、生育状況や収穫時の注意点を確認していきます。



ラッカセイの播種作業をする岡部卓磨さん



サツマイモの苗を植える渡辺勇太さん



サツマイモの苗を植える(左から)北野準樹さんと川端慶也さん



サツマイモの苗を植える  
(左から) 北野準樹さんと加藤藍規さん



電動運搬車を試運転する斎藤摩利雄さん



電動工具を試している  
(左から) 吉村惇さんと星野功平さん



試飲販売の様子

野準樹会長の圃場でサツマイモ苗の移植作業が行われました。今年は8カ所の会員の圃場で「紅あずま」「紅はるか」「紅高系」の3品種1000株を手作業で植え付けました。

9月下旬に収穫し、10月上旬ごろにJAみねのぶ生活店舗駐車場で販売を予定しています。

北野会長は「サツマイモ販売は毎年地域の皆さまから好評をいただいています。消費者と対面で販売できる貴重な機会を大切にした

い」と意気込みを語りました。今年は店舗での販売のほか、美唄給食センターへも出荷されます。副会長の加藤藍規さんは「品質の良いサツマイモを栽培し、より多くの皆さんに食べてもらいたい」と話していました。

### J A青年部現地研修会 電動機具の実演会

6月13日、JAみねのぶ青年部が青年部事業の一環として現地研修会を行い、充電式の電動農業機具の実演会を開きました。

実演会は美唄市光珠内北の当JA玄米ばら集出荷調製施設構内で行われ、23人の部員が参加しました

(株)マキタ札幌営業所から講師を招き、機具の使用方法やメンテナンス方法を学びました。部員たちは充電式のアシスト機能付き運搬車や草刈り機などを実際に操作し機具の重さや性能を確認しました。

部員たちからは「手や腰にくる振動が少なく、女性や高齢者でも

た。近年、環境負荷の低減やスマート農業の実現に向けて、充電式バッテリー製品の普及が進んでいますことに着目。動作音や振動がない電動機具の活用により、農家が抱える高齢化による労働力低下などの課題の解消を図ることを目的に行われました。

6月23日、新千歳空港内にある「北海道本舗総合土産店」で当JAのオリジナル純米大吟醸「一圓融合」の試飲販売を(株)小林酒造と合同で行いました。当JAからは高田専務と総務課の宮本職員が店頭に立ち、「一圓融合」をPRしました。鹿児島から旅行で北海道に訪れたというお客様からは「パッケージがおしゃれで目にとまつた」というお客さまからは「パッケージがおしゃれで目にとまつた」と評の声をいただきました。

### 新千歳空港で 一圓融合を試飲販売



ハスカップの生育状況を確認する  
(左から) 真野家光さんと菊池茂子さん

15日、3ヵ所の組合員の圃場を巡回しました。18人の生産者が参加し、収穫開始時期や最盛期がいつ頃になるかを確認したほか、剪定のポイントなど活発な意見交換が行われました。

巡回先の圃場では、ハスカップは力強く枝葉を広げ、着色も進み鈴なりに果実を実らせていました。

同組合の高橋廣会長は「昨年は風が強い日が多く、実がこすれて傷が目立つたが、今年は上々の仕上がりになつていて」と話していました。

## ハスカップ生産組合圃場確認

今年は早い方で6月19日からスカップの出荷が始まり、前年より4日早い開始時期となりました。

### 甘酸っぱいハスカップ旬到来! 前年より5日早く観光農園開園

本年のハスカップ狩りは6月22日から6ヵ所の農園で始まり、前年より5日早い開始時期となりました。力強い酸味の中にもほのかに甘みがあり、おいしいハスカップに仕上がっていきます。

#### 《ハスカップ狩り》

- ・時 期…6月22日から約3週間  
(ただし、実が無くなり次第終了します)
- ・開園時間…7時～16時
- ・料 金…入場無料
- ・お客様が摘み取ったハスカップ 1kg 1,400円
- ・生産者収穫済みのハスカップ 1kg 2,400円
- ・問合せ先  
JAみねのぶ営農販売課 (☎0126-67-2115)



採れたてのレタスを出荷する三浦泰来さん

同グループのリーダー森川真孝さんは「春先の低温で初期生育が遅れていたが、ようやく気温が上がり回復傾向になってきた。シャキシヤキでみずみずしく平年並みの仕上がりになつた」と話していました。

J A管内でトップを切つたのは、野菜生産者グループ「カラフル」で、品種「ツララ」など35種(1スケ8玉入り)、280玉出荷しました。

## 「カラフル」の レタス出荷始まる

6月21日からレタスの出荷が始まりました。

「カラフル」のレタスは7月下旬から8月上旬にかけて最盛期を迎え、10月上旬まで出荷が続く見通し。最盛期には1日で約200スケが出荷される見込みです。



レタスの収穫作業に励む岡部卓磨さん

### 減農薬「土生米」の圃場にドジョウを放流

6月21日、当JAの米づくりを考える会(会長鈴木孝典)は減農薬のブランド米「土生米」の圃場でドジョウの放流会を行いました。美唄市光珠内町の鈴木孝典会長の圃場に他の会員や農協関係者ら18

今年の作付面積は338haで昨年より88ha増加し、グループ全体で出荷量12万玉を目指しています。

人が集まり、ドジョウ約31キロを放流しました。

生産者自らが圃場にドジョウを放流し、ドジョウが生息できる安全・安心な環境で栽培を始めて今年で11年目を迎えます。農薬の使用回数を慣行の22回から半分以下に減らすなど、農薬や化学肥料の使用を抑えた生産に取り組んでいます。

今年の土生米の作付は8戸で30・6㌶、ドジョウは10㌧当たり300㌘を放流しました。

鈴木会長は「ドジョウがすむ、安全・安心な栽培環境で育てたお米を多くの方に食べてもらいたい」と意気込みを話しました。



ドジョウを放流する鈴木孝典会長

### マネロン対策に向けて 職員業務研修会

5月30日、当JA会議室で金融

課・総務課・内部監査室の正・準職員を対象に職員業務研修会を開き、職員13人が出席しました。

研修会は美唄警察署警備課の佐々木警部補と刑事・生活安全課の成田巡査部長を講師に招き行いました。国際的に核・ミサイルやテロの脅威が増す中、犯罪者・テロリスト等につながる資金を断つことは、日本及び国際社会がともに取り組まなくてはならない課題であることを受けて、マニー・ロ



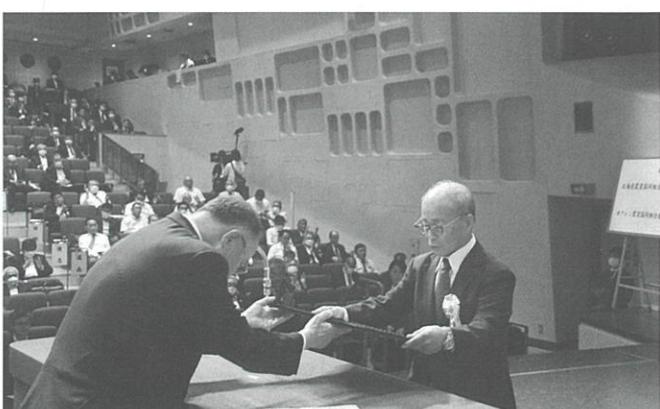
放流会に参加した皆さん



業務研修会の様子

### 第5回（6月定例）理事会開催

6月26日、第5回（6月定例）理事会を開催しました。決議事項はありません。



小野寺俊幸会長から賞状を受け取る森川和徳さん（右）

ンダリング（資金洗浄）についてと防犯に関する情報提供をしていただきました。

工藤金融課長から個人情報漏えい等防止などについて説明し、「特に信用事業での漏えい事案が多くなっている。個人情報書類を机上に放置し席を離れることや、本人の同意なく個人情報を口頭で親族に伝えることが無いよう意識して業務に取り組んでほしい」と話しました。

報徳特別賞は道内の報徳組織発展に寄与した3人に贈られました。森川さんは、報徳を組合運営の基本とする当JAの役員を通算21年務め、報徳精神の普及・高揚とともに組織や地域農業の発展に貢献したことなどが評価されました。

### 農業発展に貢献 森川和徳さん報徳特別賞受賞

6月20日、北海道報徳社は20

22年度の報徳名譽賞、特別賞の受賞者を札幌市で表彰し、報徳特別賞の部で美唄市峰延町峰樺3区の森川和徳さんが表彰を受けました。

## 海のクリーンアップ大作戦 海ごみゼロを目指してゴミ拾い

6月17日、生活協同組合コーポさつぽろが主催する「Hokka ido 海のクリーンアップ大作戦！」に当JAを代表して3名の職員が参加し、石狩市の海水浴場「あそびーち石狩」でゴミ拾いをしました。

コーペさつぽろでは、北海道の海をみんなできれいにしていくことを推進するため、海や川などの清掃活動を始めて今年で3年目になります。

2050年には海洋中のプラスチックの量が、魚の重量を超える



石狩浜でのごみ拾いの様子

## 報徳

### 天下国家の安寧と繁栄も 自分の足元から



尊徳翁は次のように話された。人民の幸福を前提とした、きちんととした政治や治世が行われにくくなつておあり、しかも、そのことが実際に行われなくなつて久しい。しかし、誰もそのことが良いと思つておられるわけでもなく、何とかして改善したいと思って、努力しようとされているのである。しかし、なかなか思うように改善されていない。

改善されない理由としては、為政者にその才能や意思があつたとしても、それを実行するだけの力が無い時には行われない、ということがある。また、才能と力と実行力があつたとしても、仁徳が備わつていなければ、人がついてきてくれないから、完全に行えないということもある。もし、仁徳が備わつていたとしても、その人がそれを実行するにふさわしい地位に居なければ、また、行われない、ということもある。というようなことがあげられる。しかも、その改善活動は、天下国家を対象として行わなければならぬので、簡単な事ではないことは明白である。しかし、そのことを、国をまとめる人がいないとか、いるのにそ

と予測されています。きれいな海と環境を守るためにプラスチック製品の使用を減らす、ゴミ拾いに参加するなど、一人一人ができるところから取り組むことが求められています。

また、農業生産分野では使用済み廃プラスチックの適正処理、排出抑制に資する資材の利用や可能なものは再利用するなど、農業由来廃プラスチックの排出抑制に努めよう推進されています。

尊徳翁は次のように話された。人がその地位に就けられていないとか、嘆いてもはじまらないのである。よく思いをめぐらせてみると、それは、個人や、家庭や、村から成り立っているものなのである、ということが判るはずである。だから、あきらめずに、小さい単位での改善を数多く積み上げて、国全体に広げていくという方法もあるのである。

それには、まずは、自分の畠の茄子を沢山ならせるために、茄子作りの方法に精通すべきだし、馬を肥やすために、馬の世話をうまくできるようになる、といふように励むことである。また、家族・一族の発展のために、世帯主が良く面倒を見て、兄弟、親戚ともに力を合わせて盛り立て、時には友人や同志にも力を借りて励むことも必要である。誰もがこのように自分の周りをきちんとし、村々を同じ様に正していくば、やがては天下国家がきちんとしてくることになるのである。